

医療史

日本の古代から近世

第3回

診療情報管理士テキスト

診療情報管理 I も参考のこと

漢方医学の時代

- 遣唐使・遣隋使の時代：中国は先進国
- 西暦702年：医疾礼という医療に関する規則
- 奈良、平安と漢方医学が発達
- 漢方医学：大陸から断続的に伝来する経験医学。生薬方、鍼灸・按摩、食養生など
(Wikiより)

漢方医学の診察法

- 診察法

- 望診：見ること。体格、顔色、舌の状態等。
- 聞診：聞いたり、においをかぐこと。声、咳、排泄物の臭いなどを嗅ぐ。
- 問診：同様に家族歴、既往歴、現病歴、愁訴
- 切診：触診のこと。脈診（脈をとること）と腹診（おなかを触ること）

これまでの漢方医学ととらえ方

- 日本：西洋医学と並ぶ医学体系
- 欧米：西洋医学の代替

鎌倉時代～安土・桃山時代

- 法律上の医療制度は機能していなかった
- 系統的な医学教育体系なし: 誰でも医師を名乗れた

武士や僧侶が医業を行っていた。

江戸時代の医療

- 身分制度の確立：士農工商
- しかし、医師は身分制度の枠外
- 貝原益軒：「医は仁術」。医療における倫理感

- 医療費：裕福な人からは多く、貧しい人からは少ない額を徴収した。

日本への西洋医学の到来

- 1557年：アルメイダが大分に洋式病院（ちなみに、大分市医師会立病院：アルメイダ病院という）
- 西洋医学：キリスト教普及の集団：キリシタン禁制（1587年）とともに衰える
- 江戸時代：オランダ医学が長崎で導入

江戸時代の医療(1)

- 1722年:初めての病院、小石川養生所
- 1774年:杉田玄白の解体新書
- 1800年代:緒方洪庵(適塾:阪大の源流)、佐藤泰然(和田塾:順天堂の源流)
- 1823年:シーボルトが長崎で医学教育
- 1861年:鳥羽伏見や戊辰戦争で、負傷兵に西洋式の治療

江戸時代の医療(2)

- 華岡青洲：麻酔下での乳がんの手術
- 種痘接種
- 江戸末期のコレラの流行
- 梅毒、結核の流行
- はじめての帝王切開の実施
- 1700年代後半から顕微鏡の使用も行われた。